

新宮山彦ぐるーぶ第1807回

深仙避難小屋の扉修復と内壁ペンキ塗り

「その1 避難小屋の入口扉修復」

◇実施日：平成27年05月03(日) 天候：小雨

◇参加者：松本吉殖、坂口秋臣、畑林秀味。

計3名。

朝5時に松本板金工業所に松本・坂口・畑林の3人が集合して、釈迦ヶ岳の旭口登山口(大尾登山口)へ出発する。今日は天候が悪い。

奥吉野発電所を過ぎて前輪右側バンクのため、予定より少し遅れて到着。雨が降って来たので、カッパを着用して登山口8時出発。

千丈平にテント2張り、一つのテントの夫婦が、明日の天候はどうかと問われ、雨と言って少し話をして、捲道へ歩き始める。

伊富喜行者さんの碑の前で、松本君に勤行してもらおう。10時40分深仙避難小屋に到着。

昨年9月に入口扉を修理したが、扉が下がり開閉し難くなり、3人でドアの再修復と小屋左側の屋根下のトタン壁を、明かり取りの透明なポリカ波板に取替え昼食。

新宮山彦ぐるーぶのブルゾンを着て仕事をしていたので、修理中何人かの人々が、話しかけて来て、「新宮山彦ぐるーぶですかパソコンで見ます」、「有難うございます」と声をかけられる。

香精水へ水を汲みに行くが、ポタポタと落ちるだけで、時間がかかるので途中であきらめて戻る。

深仙灌頂堂で松本君が勤行してくれて、終わってみれば何人かの人と同じように手を合わせておられビックリ!

深仙宿13時30分に出発して、14時20分千丈平で松本君の新宮山彦ぐるーぶのブルゾンを見た古座川の人が、話しかけて来て少し休憩。

16時30に駐車場に着き新宮に帰る。

(記 畑林)

「その2：内壁ペンキ塗り」

◇実施日：平成27年05月08(金) 快晴

◇参加者：梶野照雄。

計1名。

ネットで、奥駈道縦走者のレポートを見て、5月4日に松本さんが深仙小屋の補修に行ったのを知った。

急遽、塗料と、4月に作っておいたハシゴの延長部を持って、深仙宿まで行ってきた。

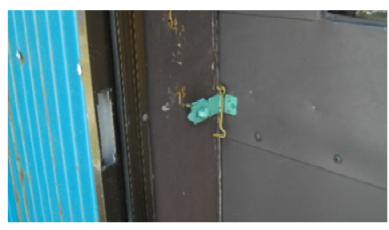
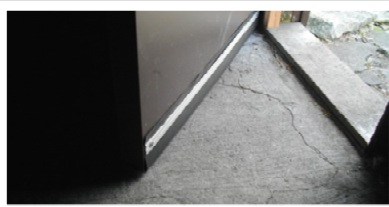
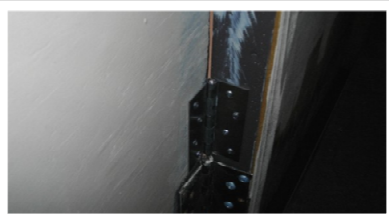
抜群の晴天だが、気温は低い。少し風もあり、半袖でじっとしていると寒くなってくる。

駐車場にはすでに5台の車、準備している人影はナシ。もう全員登っているようだ。

ゆっくり休憩しながら、深仙宿に11時過ぎに着く。深仙宿手前にはツジがきれいに咲いていて、ついつい写真を撮ってしまう。

小屋にはザックが一つデポしてある。大日岳へ行っているようだ。1ハシゴの延長は短時間で出来そうなので、昼食の前に済ませた。10分

程で完了、屋根まで届くようになった。松本さんが入る前に済ませておけばよかったと思う。



ツジの競演

丁番が増強

ドア下の隙間ふさぎ

外の金具も増やされた

小屋のドアは、丁番が増やされ、床を擦らないように上に上げた為に来た隙間に、ゴムの押えが取付られた。ドア外の腐食していた木材は、新品に交換された。東側の煙り抜きに明り取りが新設された。フードを被ったような狭い場所、おまけに短いハシゴ。松本さん、ご苦労されたと思う。

お昼を食べていると、熟年ご夫婦が現れる。岩国市からだそうだ。釈迦ヶ岳と大日岳のピストンで昼食後、登り返して下山するというので、巻道を勧める。「基本的にゆるい登りで、テープもありますよ」と青木さんが打ってくれたテープが役立った。

昨秋、塗料が足らず、塗り残した部分の塗装を始める。本宮まで行くという単独縦走者が3人通り過ぎる。その都度手を止めしばらく話す。

香水はポタポタで、溜まっている水はとても飲めないという。

今日は持経で泊るといので、持経の水場をお勧めした。

2時少し前に塗装終了、ドアの内側と新しくなった木材も、何とか塗ることができた。



東側の明り取り 屋根まで届く梯子 道具は壁に掛け整理 ハシゴも収納

今回、箒と塵取りを持って行き、壁に掛けるようにした。ごみは無かったが、これからもきれいに使ってほしいとの願いを込めた。

2時過ぎから、笹を刈りながら千丈平へ向かう。

5時過ぎ、登山口に下りると車が1台、まだ止まっている。中からご夫婦が下りてきて、救助を要請される。

ライトを消し忘れ、バッテリーがあがってしまい、途方に暮れているという。

ブースターケーブルを出し、車を横付けして接続、一発で始動した。松山市からだそうで、2時間以上携帯の繋がる場所は無いかと、林道を行ったり、下ったり歩きまわっていたそうで、暗くなる前に発電所まで歩こうかと考えていたところだったという。

大変感謝され、「お礼がしたい」と申し出られる。これくらいのことでお礼は無用、とお断りするも住所と名前を覚えてくれと懇願されるので、山彦のHPを案内して、「ご賛同いただければお礼の代わりに持経宿改築の寄付をお願いしたい」とPRして別れた。

ブースターケーブルとジャッキは常に車に積んである。釈迦ヶ岳に2行く時には、角スコップも積んでいく。

4月に行った時は、これが役立った。朝、落石は殆ど無かったが、夕方、5mくらいにわたって5〜10cm程の落石が広がっていた。

ゆっくり走れば問題ないが、車を止めてスコップで片側に寄せた。この間約3分手で除けるよりはずっと効率がいい。

”備えあれば憂いなし” 諺に嘘は無い、を実感した。

行動タイム

登山口8時30分 ↓古田ノ森9時56分 ↓千丈平10時38分 ↓
深仙宿11時10分 深仙宿14時21分 ↓千丈平15時34分 ↓古田
ノ森16時8分 ↓登山口17時8分

(記 梶野)